

鹿児島県奄美パーク
実績報告書

LEAF2014



目 次

第1 鹿児島県奄美パーク概要 1
第2 平成26年度の事業実績について 2
第3 奄美の郷企画事業 3
1 季節感(年中行事)を取り入れたイベント 3
(1) 第8回奄美パークわらべシマ唄大会	
(2) あまみっ子フェスタ	
(3) ネリヤカナヤフェスタ	
(4) サマーコンサート	
(5) 奄美パーク夏まつり～シマジマ(喜界・与論)だより～	
(6) フユウンメコンサート	
(7) 初春唄あしび	
(8) 奄美パーク新春寄席	
(9) 奄美パーク春まつり～サンガツサンチ～	
2 奄美の郷ライブステージ 12
(1) ゴールデンウィークしまうたミニライブ	
(2) 夜ネヤ, 島ンチュ, リスペクチュ!! in 奄美パーク	
(3) 奄美パークキッズダンスフェスタ2014	
(4) しまうたミニライブ(夏休み)	
(5) 夏色ラブソディ	
(6) 龍文祭	
(7) 奄美パークパフォーマンスバトル2015	
3 文化講演会 17
4 わきやステージ in パーク事業 18
(1) 隆柳勘大と社中の舞・日置幸夫&わらべんきや	
(2) 汝きや我きや島唄しょーろ	
(3) あやまる会島唄あしび in 奄美パーク	
(4) 森田佐喜雄ハーモニカショー	
(5) 奄美の島唄と沖縄芸能公演	
(6) 若葉のころ	
5 その他自主事業及び共催事業 21
(1) 春休み中学生以下限定抽選会	
(2) 中学生以下限定抽選会(ゴールデンウィーク)	
(3) 2014 FIFA ワールドカップ ブラジル パブリックビューイング	
(4) クイズラリーミッション	
(5) 第4回ケンムンふえすた	
(6) 夏休み中学生以下限定抽選会	

- (7) 皆既月食観察会
- (8) 文化の日イベント
- (9) 第8回奄美パーク子どもクリスマス会
- (10) 冬休み中学生以下限定抽選会

第4 田中一村記念美術館企画事業	・・・27
1 奄美関連作家展及び招待作家展	・・・27
(1) 秋田淳之助とニッコールクラブ奄美群島支部合同写真展	
(2) 5の会展	
(3) 「島色」編衣と写真展	
(4) 名瀬美術協会・AJAC交流展	
(5) 木下晋絵本原画展	
(6) 奄美の作家3人展	
2 県美展奄美関連作家展	・・・30
3 田中一村記念スケッチコンクール作品展	・・・30
4 第13回奄美を描く美術展	・・・31
(1) 本展	
(2) 巡回展	
(3) 入選・入賞作品	
5 その他企画展	・・・37
龍郷町立小・中学校図画工作・美術科学習発表展	
6 芸術文化講演及び美術講演	・・・37
木下晋絵本原画展オープニング記念芸術文化講演	
7 創作体験教室ほか	・・・38
(1) 創作体験教室・楽しい色紙絵「奄美を描こう」	
(2) 一村・子どもワークショップ	
(3) 夏休み親子「泥染体験」	
(4) 田中一村鑑賞会	
(5) 創作体験教室「人物画講座」	
第5 各種イベントポスター	・・・41
第6 奄美パーク応援隊について	・・・46

第1 鹿児島県奄美パーク概要

1 施設の目的

鹿児島県奄美パークは、奄美の美しい自然や多様な文化・歴史をわかりやすく紹介した総合展示ホールや奄美シアター、人々の交流の場を提供するイベント広場からなる「奄美の郷」と、奄美の自然を描き集大成させた孤高の日本画家「田中一村」の作品を紹介する「田中一村記念美術館」の二つの施設を中核とする奄美群島全体の新たな観光拠点施設として、奄美市笠利町節田の旧奄美空港跡地に建設された。

2 設置者 鹿児島県

3 開園年月日 平成13年9月30日

4 指定管理者 奄美群島広域事務組合

5 園長兼館長 宮崎 緑（千葉商科大学政策情報学部長、NHK「NC9」初の女性ニュースキャスター）

6 園地面積 約77,000㎡

7 総事業費 約78億円

8 施設の概要

(1) 奄美の郷（延べ床面積約3,200㎡）

白い貝殻をイメージした外観。建物内の梁などは、琉球松の大断面集成材でソテツの葉をイメージした造形。

○総合展示ホール、奄美シアター（有料）

○アイランドインフォメーション、イベント広場、レストラン、売店

(2) 田中一村記念美術館（延べ床面積約2,490㎡）

奄美の海をイメージした池に3棟の高倉が浮かぶ設計。床はイタジイを使用。

○常設展示室、特別展示室（有料）

○企画展示室、ガイダンス室、図書資料室、喫茶・ミュージアムショップ

(3) 一村の杜（面積7,000㎡、平成19年7月20日完成）

6つのスポットで構成されている遊歩道。田中一村の奄美での作品に描かれている草木を植栽。それぞれのスポットで作品に描かれている風景を鑑賞。

(4) その他の施設

○多目的広場（約3,780㎡）、野外ステージ、展望台、駐車場（約240台）

9 観覧料金 共通観覧料：一般620円（20人以上の団体は490円）

高・大学生410円（同320円）

小・中学生310円（同240円）

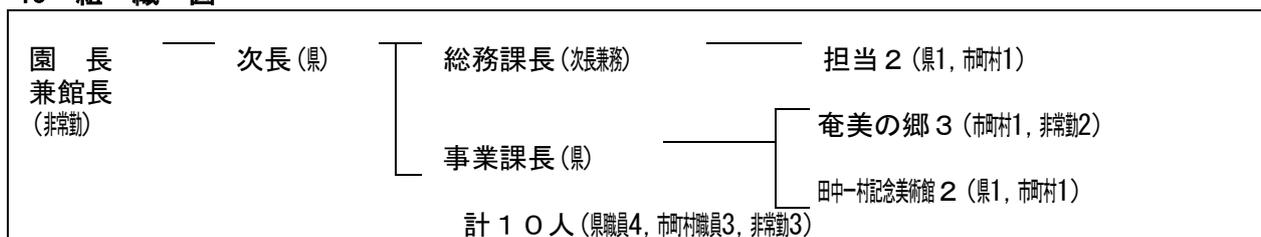
10 休園日 毎月第1、第3水曜日（祝日の場合は翌日）

（4/29～5/5、7/21～8/31、12/30～1/3は開園）

11 開園時間 9：00～18：00（7月、8月は19：00まで）

12 入園者数 平成27年3月末現在 延べ1,916千人

13 組織図



第2 平成26年度の事業実績について

奄美パークは、奄美の美しい自然や多様な文化、歴史をビジュアルに紹介する「奄美の郷」と、奄美の自然を描き集大成させた孤高の日本画家、田中一村の作品を紹介する「田中一村記念美術館」の二つの施設を中核とする奄美群島の観光拠点施設であり、また、奄美群島に居住する方々の交流の場でもあります。

「奄美の郷」では、総合展示ホールや奄美シアター、アイランドインフォメーションで奄美を紹介し、イベント広場においてシマ唄、伝統芸能、踊りなどで構成するイベントを開催しています。「田中一村記念美術館」では、常設展示のほか、「企画展示室」において奄美関連作家展、招待作家展、奄美を描く美術展、創作体験教室などを開催しています。

平成26年度は、過去最大級の大型観光客船「サン・プリンセス」の初寄港や、成田と奄美大島間に格安航空会社「バニラエア」が就航するなど、奄美の観光交流人口増加の要因もいくつかあり、また、全国離島初のご当地ナンバー「奄美ナンバー」の交付が始まったことで、奄美をさらに国内外に情報発信できるようになりました。ただ一方で、相次ぐ大型台風の襲来で、当園の展望台が被災するなどの自然災害に見舞われた年度でもありました。このような中、当園の入館者は、平成13年のオープン以来、平成27年3月末で約192万人となりました。

平成27年度は、「第30回国民文化祭・かごしま2015」の開催で、奄美群島でも様々なイベントが予定されています。また、奄美・琉球の世界自然遺産登録に向けての取組や、平成32年に開催される鹿児島国体への準備が着実に進められることで、次年度以降に向けて、交流人口の拡大が図られることが期待されています。当園は、地元の皆様とともに歩んでいくことを目指しており、皆様の助言や力添えをいただき、奄美群島への追い風を逃すことなく、様々な事業を展開し、誘客に取り組んでまいりますので、今後ともどうぞよろしくお願いいたします。



奄美の郷



田中一村記念美術館



奄美の郷・総合展示ホール



田中一村記念美術館・特別展示室

第3 奄美の郷企画事業

1 季節感（年中行事）を取り入れたイベント

（1）第8回奄美パークわらべシマ唄大会

日時：平成26年5月5日（月・祝）9：30～15：00

場所：屋内イベント広場 入場者数：約330名

内容：奄美の将来を担う子ども（あまみっ子）たちが、シマ唄を通じて奄美固有の伝統文化への理解を深めるとともに技法を学び、シマ唄文化を広く後世に伝える目的で開催した。

参加者は、小学校低学年の部に17名、小学校高学年の部に20名、中学生の部に10名の計47名であり、昨年度に比べ参加者は減ったもののレベルの高い熱戦が繰り広げられた。

今回は、喜界町や鹿屋市など島外からの参加者も増え、特に喜界町から多数の受賞者が出るなど、その健闘ぶりが感じられた。

最後に築地審査委員長はシマ唄の重要な部分であるシマグチ（方言）がすたれていく傾向にあり、シマ唄の保存継承のためにも日頃からシマグチを身につけられるような環境作りをしてほしいと投げかけた。

なお、ゲストに招いた平成25年度の各部門優勝者の飯田日和さん、飯田秋さん、辻美里さんのほか、全国大会優勝者である界眞子さん、楠田莉子さん、住姫乃さんのシマ唄の披露もあり、来園者は熱心に聞き入っていた。



（2）あまみっ子フェスタ

日時：平成26年5月11日（日）10：00～16：00

場所：屋内イベント広場ほか 入場者数：約220名

内容：ゴールデンウィーク期間中は、島内でもイベントが多彩で行楽客が分散する傾向にあることや島外からゲストを招くことが困難であることなどから、例年、こどもの日の前日に開催していた「あまみっ子フェスタ」を今年度は次の週にずらして開催した。

午前中は、奄美手熟師会による竹とんぼや草笛作り、ソテツの実で作るナリ細工などの体験コーナーを設置。午後からは、奄美市レクレーション協会による風



車などの「むかし遊び」の体験コーナーも加わり多くの親子連れが参加した。

午後からのステージでは、サイエンス演芸師・善ちゃんによるサイエンスショーを開催。巨大な箱を使用した空気砲や空き缶などを使用した科学実験には、子どもだけでなく大人からも驚きの声が上がった。

そのほか、「奄美パークギネスチャレンジ」として用意した1分間バスケットシュート、紙飛行機飛ばし、紙コップタワーの3種目に、あまみっ子たちの真剣な挑戦が繰り広げられた。

節田小学校によるアマンデー太鼓の演奏でステージを締めくくり、最後にお菓子のプレゼントをしてイベントは閉会した。

親子連れを中心とした来園者は、様々な企画に参加し、パフォーマンスに盛り上がり、また、この日訪れたかごしまPRキャラクター「ぐりぶー」「さくら」と記念撮影するなど、ゴールデンウィークの過ぎた休日を楽しんでいた。



(3) ネリヤカナヤフェスタ

開催期間：平成26年7月20日（日）～8月31日（日）

① オープニングイベント

日時：平成26年7月20日（日）13:30～15:30

場所：屋内イベント広場 入場者数：約350名

内容：夏の観光シーズンに合わせ、7月20日（日）から8月31日（日）までの期間で開催する「ネリヤカナフェスタ」のオープニングイベントとしてフラダンスパーティーを開催した。

応募のあった6教室によるフラダンスのほか、ウクレレ演奏も盛り込み、夏の南国の海をイメージした内容とした。子どもから大人まで幅広い年代の生徒さんたちが日ごろの成果を披露し、奄美大島のフラダンス教室が一堂に会する機会となった。また、福島県いわき市で開催される「フラガール甲子園」に出場予定の古仁屋高校3年生の3人の生徒も出演し、観客席から盛大な拍手が送られた。

髪飾りを身につけ、きれいな色彩の涼しげな衣装をまとい、優雅で美しいフラダンスを舞う姿に、観客からは、「毎年開催してほしい」という言葉が聞かれ大



褒好評であった。

出演者は次の7組。チカ ハワイアンフラ ハウオリ
アイ スタジオ, リコ フラダンス教室, ALOHA HULA
AMAMI, Hula-みんご, Halau O Lehua O kalani 奄美
大島校, フラ教室チーコ, 奄美ウクレレ計画望月

②展示関係

期間：平成26年7月20日（日）～8月31日（日）

場所：アイランドインフォメーション及び奄美シアター付近
期間中の入場者数：8, 832名

内容： アイランドインフォメーション付近では、ダイビング
インストラクターの伊藤公昭氏が撮影・所有の水中
写真約100枚を展示した。奄美の海洋生物の写真を
珍しそうに鑑賞する姿が多く見られた。

奄美シアター付近では、同じく伊藤氏が撮影した
「海底のミステリーサークル」の映像を放映した。シ
ッポウフグに似た新種とみられるフグが巣作りをす
る過程と言われる世界初の映像に、多くの観光客らが
足を止めて熱心に見入っていた。

また、ミステリーサークル映像の隣には砂浜を再現
して、星砂探しや貝殻パズルの体験コーナーを設置し
た。観光客からは、「この時期の砂浜は猛暑で遊べな
い。屋内に砂浜があると安心して子どもたちを遊ばせ
られる」と好評であった。

子どもたちの夏休み期間中にあわせて開催したフ
ェスタは、訪れた多くの親子連れの観光客らに対して、
奄美の海のすばらしさを印象づける内容となった。

③夏休み親子自然教室（リーフの生き物探し）

日時：平成26年7月26日（土）12：00～13：30

場所：屋仁海岸（奄美市笠利町） 参加者数：14名

内容： ネリヤカナフェスタの一環で、親子で自然に親しみ
夏休みの思い出にしてもらおうと夏休み親子自然教
室を開催した。

4家族14名が参加し、大潮の干潮の時間帯に奄美
市笠利町北部に位置する屋仁海岸のリーフへ出かけ
生き物や貝殻を探した。元日本貝類学会会員・九州貝
類談話会会員・奄美の自然を考える会理事の有馬康文
氏を講師に招き、生き物を探す時の注意点などを習っ
た後、探し方や生き物についての丁寧な説明を受けな
がら潮が上がってくるまでの約2時間を過ごした。



積極的に質問する子どもや、童心に返ったように珍しい生き物を探そうとする保護者など、参加者は笑顔いっぱい採集し海の生き物との触れ合いを楽しんでいた。

④夏休み親子手作り教室（貝細工を作ろう）

日時：平成26年8月23日（土）13：30～15：00

場所：レクチャールーム 参加者数：11名

内容：奄美の自然を考える会理事の有馬康文氏を講師に招き、貝殻などを使った手作り教室を開催した。

奄美大島の海岸から採取した貝殻やサンゴ、ビーチグラスなどを使い人形と表札を作る手芸教室で、講師による見本となる完成品を示しながらの丁寧な作り方の説明を受けた後、5組11名の親子が製作にチャレンジした。参加者は、見本を見ながらテーブルに並べられたたくさんの貝殻やサンゴ、ビーチグラスのなかから自分好みの材料をじっくり選び個性あふれるデコレーションを施していた。

どの親子も独創性豊かで素敵な作品に仕上がりに、笑顔で持ち帰る姿が印象的であった。



（４）サマーコンサート

日時：平成26年8月9日（土）13：30～15：40

場所：屋内イベント広場 入場者数：約200名

内容：多くの観光客・帰省客が訪れる夏休み期間中に、県内外の観光客等と地元の方々との交流を目的に「サマーコンサート」を開催した。地元で仕事の傍ら様々な音楽活動をされている楠田哲さんの呼びかけで、奄美を代表する4組の女性アーティストたちが出演した。

1組目は、全国民謡民舞大会で2度にわたり優勝を果たした楠田莉子さん。島唄「行きゅんにや加那節」のほかにJバラードにも挑戦し、中島みゆきの「空と君のあいだに」などを歌い、普段とは違う声色を披露した。2組目には名瀬のライブハウスなどで演奏活動をするMiho&Shizukaさんがステージに上がった。テレビや映画などどこか耳にしたことのある洋楽を中心に、ザ・ビートルズの「in my life」などをしっかりと歌い、その歌声で観客を魅了した。3組目には若手唄者を代表する別府まりか&藤田晶さんが登場し、



かさん唄を披露した。「うんにやだるほこらしや」では手遊びも取り入れ、観客も一緒になり、島唄に合わせて唄あしびを楽しんだ。ステージも終盤に入る頃、飛び入りで初恋パワーズが登場し、「涙そうそう」とハワイバージョンの「Ka Nohona Pilikai」をメドレーで歌い、夏の南国をイメージさせるナンバーを届けた。最後は、はまだゆかりさんによるオリジナル曲が歌われ、「月の道」や「ばあちゃんの紬」では曲作りの際の自身の思い出なども語られた。最後は大ヒット曲「麦わらぼうし」を透き通る声で歌うなど、奄美の夏を思わせる曲の数々であった。

帰省客などの多い旧盆の中日に開催したことで、家族連れを中心とした多くの方が詰めかけ、ポップスやジャズ、島唄など多彩なジャンルのプログラムで、アーティストがそれぞれの歌の世界を演出し、観客を飽きさせることなく、会場は終始和やかなひとときに包まれた。

(5) 奄美パーク夏まつり

～シマジマ（喜界・与論）だより～

日時：平成26年8月24日（日）13：30～15：30

場所：屋内イベント広場 入場者数：約400名

内容：奄美群島の島々に焦点を当て、その島の伝統芸能に触れていただくことや、地域で活躍する人々を紹介するとともに、地元の人々や観光客との交流を図ることを目的としたイベント「シマジマだより」を開催し、今年度は喜界島・与論島の2島を紹介した。

喜界島からは、紀乃元流、奄美芸能島唄教室、吾妻流藤豊会、上嘉鉄八月踊り保存会の5団体が出演し、日舞や島唄のほか、地域に伝わる喜界島独特の八月踊りを披露。最後は六調で喜界島のプログラムを締めくくった。

引き続き、与論島からはゆんぬエイサーが出演し、エイサー（主に沖縄県でお盆の時期に踊られる伝統芸能）を地方（じかた）とちよんだら一隊での構成で披露。エイサーの演舞中はちよんだら一隊が会場を練り歩き笑いの渦に包み込まれた。最後はカチャーシー（奄美大島で言う六調）の披露で、ちよんだら一隊がこれまでとは違う民謡で来場者の手を引いて踊りに



巻き込んでいた。

喜界島と与論島の踊りを見比べることで、それぞれの地域に違いがあるということに改めて気付かされる内容となり、訪れた観光客に対しても奄美群島の魅力を更に情報発信することができた。

(6) フェウンメコンサート

日時：平成26年12月7日（日）13：30～15：30

場所：屋内イベント広場 入場者数：約200名

内容： 冬の折り目という意味で作物の収穫に感謝する「フェウンメ」の時期に合わせて、新体操や島唄、アカペラコーラスで構成したイベントを開催した。

来年開催される第30回国民文化祭かごしま2015「奄美芸能と黒潮文化の祭典」に出演予定している県立大島高等学校新体操部による「島のよさこい」などの躍動感あふれる5演目の演舞に始まり、男性5人組のアカペラグループのカップラーズは、おなじみのクリスマスソングを中心に、ほっとな気持ちになれるナンバーをアカペラならではの温かみのあるハーモニーで届けた。3組目は、中尾聖子さんと松元良作さんが島唄を披露。最後はフラワーガーデンによる親子コーラスの披露で、歌を歌いながら箱を積み重ねクリスマスツリーを作ったり、今年話題になったアニメソングをお母さんたちがメドレーで歌い、それにあわせて子どもたちが元気いっぱいにかわいい踊りや体操を披露した。

会場は多くの家族連れで和気あいあいとした雰囲気になり、会場の子どもたちも一緒に楽しそうに踊ったりして、一足早いクリスマスを満喫していた。



(7) 初春唄あしび

日時：平成27年1月3日（土）13：30～16：00

場所：屋内イベント広場 入場者数：約450名

内容： 島唄グループゆらゆい代表の和田孝之さんの企画により、同グループやインガの会、ならびや歌謡グループ、桜華会奄美本部の出演による新春恒例の「初春唄あしび」を開催した。

内容は3部構成で、和田さんの司会で唄あしびが進められ、1部の島唄では、祝唄の朝顔節に始まり、松元良作さん、中尾聖子さんによるカサン唄と、安原ナスエさん、山元俊治さん、石岡春代さん、向珠理さんによるヒギヤ唄で唄比べをしながら楽しい唄あしびを披露した。

2部の歌謡・日舞では、桜華会奄美本部による日舞と、岩田幸喜さん、ベツチェ生元さん、前島隆照さん、作まゆみさん、和田孝之さんによる歌謡ショーが披露されたほか、桜華会による歌に合わせた踊りも披露され、華やかさが増したステージとなった。また、2部の終盤には特別ゲストで城南海さんが飛び入りし、デビュー曲である「アイツムギ」や「ただ一つ」が歌われ、優しい歌声で多くの観客を魅了した。

3部では、再び島唄が唄われ、正月着物節など新春らしい曲目のほかに、ワイド節、六調と唄に合わせて出演者が踊り、賑やかにステージが締めくくられた。

新年最初のイベント「初春唄あしび」に島内外からたくさんの観客が詰めかけ、会場は終始和やかなひとときに包まれた。



(8) 奄美パーク新春寄席

日時：平成27年1月4日（日）13：30～15：30

場所：屋内イベント広場 入場者数：約300名

内容： 新しい年を迎え、普段、日本古来の伝統芸能に触れる機会が少ない奄美の方々に落語を楽しんでいただくとともに、奄美パークを身近に感じていただけるよう、地元酒造メーカー協賛により新春寄席を開催した。

最初の一席は三遊亭天歌氏（ニツ目）による落語で、小話で観客を笑わせ、リラックスさせたところで本題の「寿限無」を披露した。早口言葉あるいは言葉遊びとして知られる古典的な噺で、生まれた子どもが元気



で長生きできるように、縁起のいい言葉を幾つか紹介され、どれにするか迷った末に全部付けたという話で、その後の展開の笑い話を面白おかしく話したり、長い名前を早口で何度も繰り返したりして会場を盛り上げた。

続いて、三遊亭鬼丸氏（真打）の一席目ではこれまで何度か訪れた奄美大島でのエピソードのあと、昭和に入って作られ、江戸風情を残したぶっつけオチの新作落語「試し酒」を披露した。奄美黒糖焼酎の話題も交え、豪快に酒をあおる様子を雰囲気たっぷりに演じた。

中入り後は、江戸家小猫氏が動物ものまねを披露した。声帯模写の代表作であるウグイスの鳴きまねに始まり、リュウキュウアカショウビンやアマミノクロウサギ、オットンガエルなど奄美に棲息する動物の鳴きまねを披露したほか、犬、猫、猿、ニワトリ、サイ、鯨、イルカ、鈴虫など多彩なものまねを見事に演じ会場を沸かせた。

三遊亭鬼丸氏の二席目では、古典落語の名作「ねずみ」を披露した。

新春寄席も恒例となり、江戸前の落語と祖父の代から直系により受け継がれている動物ものまねの伝統芸能で、多くの来場者に初笑いを提供することができた。

なお、演目終了後には抽選会を開催し、来場者に出演者や協賛企業から提供いただいた景品などをプレゼントした。

（９）奄美パーク春まつり～サンガツサンチ～

日時：平成27年3月1日（日）11：00～15：30

場所：屋内イベント広場 入場者数：約300名

内容： サンガツサンチの桃の節句にちなんで、女性たちによる華やかなステージと地場産のお菓子や惣菜などの販売「ひなまつりバザー」や、大島高等学校茶道部による「春のお茶会」などを開催した。

ステージ開演前、ひなまつりの雰囲気を味わえるよう先着300名にひなあられをプレゼントした。

ステージは、名瀬中学校吹奏楽部による春の曲メドレーからスタート。続いて、今年度卒業を迎え、島を



離れる若手唄者ユニットのヒメマリ，吉岡米子琉舞道場，ASA大島ジュニア新体操クラブ，奄美高等学校郷土芸能部が出演した。また，かごしまPRキャラクターの「らぶぶー」と奄美市公式キャラクターの「ロビンちゃん」，ばしゃ山村からケンムンの「ムーンちゃん」が登場し，今年鹿児島県で開催される「第30回国民文化祭かごしま2015」のイメージソングである「タイムカプセル」にあわせてかわいらしいダンスを披露した。観客が一緒になって踊る姿も見られ，国民文化祭開催に向けての効果的なPRとなった。

ステージの合間に，「ひなまつりバザー」に出店したあしたば村，味の郷かさり，奄旨海房魚匠，やにまんてん市場のみなさんがPRを行ったこともあって，各ブースは商品を買求める人たちで賑わった。

春のお茶会では，約100人にお茶が振る舞われ，春まつりらしい和やかな雰囲気を演出することができた。

そのほか，鹿児島県園芸振興協議会大島支部主催による「平成26年度奄美大島・喜界島地区フラワーコンテスト」も同時開催した。イベント終了後の花の即売会は開始10分で完売となっていた。

午前中から開催した多彩で華やいだ雰囲気のイベントは，多くの来場者で賑わい，本土より一足先に訪れる春のまつりを楽しんでいただくことができた。



2 奄美の郷ライブステージ

(1) ゴールデンウィークしまうたミニライブ

日時：平成26年5月3日（土・祝）・5月4日（日）

1部 13:00~13:30

2部 15:30~16:00

場所：屋内イベント広場 入場者数：約240名

内容： ゴールデンウィークは島外の家族連れでにぎわうことから、多くの方に奄美の文化に触れていただけるよう飛行機の発着の時間も考慮し、二日間で4回の「ゴールデンウィークしまうたミニライブ」を開催した。ミニライブでは、毎年、奄美パークでライブステージを実施している笠龍地区民謡保存協会の皆さんに演奏をしていただいた。島外の方にもわかりやすいようにと唄の意味や背景などの説明を加えた演奏で、観光客からは、「大変に親しみをもって聴くことができました」「生演奏で聴けたことが良かった」という感想をいただいた。

最後の回では団体客も六調などを一緒に踊り大変盛り上がった。なお、出演者が着用している大島紬にも関心が高く、しまうたミニライブの開催で島の特産の情報発信もすることができた。



(2) 夜ネヤ、島ンチュ、リスペクチュッ！！

in 奄美パーク

日時：平成26年6月1日（日）13:30~16:00

場所：屋内イベント広場 入場者数：約420名

内容： 島の歴史・文化を再認識し、島を伝えるためのイベント「夜ネヤ、島ンチュ、リスペクチュッ!!」をライブステージとして屋内イベント広場で開催した。

住姫乃さんと平田まりなさんによるユニット「ヒメマリ」、別府まりかさんとその後輩にあたる藤田晶さんをはじめ、ベテラン唄者の築地俊造さんが出演し笠利方面でうたわれる「かさん唄」と呼ばれるスタイルの島唄を中心としたステージで、世代の違う唄者による様々な島唄を楽しめる内容となった。島外のイベントなどでも活躍するいっちゃんりょん会のトークショーでは「すたれつつある奄美の伝統の八月踊りなどを若い世代が継承していくことに意義がある」とまとめ、



迫力のある八月踊りの披露では会場のお客様も一緒に
なって踊り盛り上がった。

また、サプライズゲストとしてテレビ等で活躍する
歌手の中孝介さんが登場し、歌手活動のルーツとなる
島唄を西和美さんと披露した。地元出身の有名人が登
場したことで会場は歓声と拍手が巻き起こった。

そのほか、軽妙なトークで司会進行も務めたサーモ
ン&ガーリックは島唄をアレンジした楽曲も披露し、
掛け声を求めるなど会場と一体となったステージを
繰り広げ観客を楽しませ、総合司会はあまみエフェム
のパーソナリティの丸田泰史さんと渡陽子さんが務
め、イベント当日の50年前の6月1日に旧奄美空港
が開港したことを伝えるなど終始会場を盛り上げた。

地元で活躍する唄者や八月踊りなどの伝統芸能を
紹介することで、地元の情報発信につながるものと期
待されるイベントとなった。



(3) 奄美パークキッズダンスフェスタ2014

日時：平成26年6月15日(日) 13:30~15:30

場所：屋内イベント広場 入場者数：約450名

内容： 応募のあったキッズ中心の団体がダンスを披露する
「奄美パークキッズダンスフェスタ 2014」を開催し
た。3歳の未就学児から小・中学生までを中心に9組
約170名が出演。フラダンスやヒップホップ、スト
リートダンス、社交ダンス、八月踊りなど多彩なジャ
ンルのプログラム構成となった。

宮崎園長の挨拶の後、サンビームキッズとのぞみ園
によるフリースタイルのダンスを皮切りにスタート
し、笑顔で一生懸命ダンスを披露するその姿に観客が
涙を見せる場面もあった。また、大人顔負けのフラダ
ンスや社交ダンスの披露もあり、詠嘆の声をもらす観
客もいた。最後は、子ども六調隊の伴奏に合わせ、出
演者が六調を踊り、賑やかに締めくくった。

順番待ちの子どもたちからは緊張が伝わり、このイ
ベントのために練習を積み重ねてきたことを感じさ
せる内容で、華やかな衣装の愛らしい姿や元気いっぱ
いに踊る姿をカメラに収める保護者など、立ち見が出
るほどの盛況ぶりであった。

出演者は次の9組(出演者順)。サンビームキッズ



&のぞみ園ディキッズ，童子八月踊り研究会，AMO DANCE SCHOOL，Halau O Lehua O Kalani 奄美大島校，フラカオスタジオ（ティアレ），フラカオスタジオ（プルメリア），リッコモダンジャズバレエスタジオ，トゥルーフレンズジュニア，チカハワイアンフラ ハウオリ アイ スタジオ



（４）しまうたミニライブ（夏休み）

日時：平成26年8月2日（土）・3日（日）・10日（日）・
16日（土）・17日（日）・23日（土）・30日（土）・
31日（日） いずれも，13：30～14：00

場所：屋内イベント広場

入場者数：約420名（8回の合計）

内容： 夏休み期間中は島外の家族連れでにぎわうこともあり，より多くの方に奄美の文化に触れていただけるように「しまうたミニライブ」を開催した。

北大島を中心に唄われている「かさん唄」を継承している日本民謡協会北大島支部の皆さんの出演で，島外の方にも解りやすい唄の意味や背景などを説明していただきながらの演奏であった。また，島内の方にも楽しんでいただけるよう毎回違う人選での出演となり，もっと開催時間を長くしてほしいとの要望も寄せられるほどの好評ぶりであった。

土日のうちで奄美パークでのイベント予定のない日にミニライブを開催したことで，8月の土日は毎回イベントが開催されているというイメージ付けとなり，また，飛行機の発着時間を考慮した時間帯に開催したことで集客力の向上を図ることができた。



（５）夏色ラブソディ

日時：平成26年9月15日（月・祝）

13：30～15：40

場所：屋内イベント広場 入場者数：約400名

内容： 敬老の日にあわせて，奄美の新民謡・奄美歌謡を中心とした「奄美の郷ライブステージ夏色ラブソディ」を開催した。

ステージ開演前，奄美の特産品で，甘く夏バテにも効果があると言われるミキを先着300名限定で振る舞い，多くの来園者に喜ばれた。



ステージは出演者でもある中島章さんによる司会で、会場に笑いを誘いながら進められた。出演者は、奄美を代表する曲や自身のオリジナル曲を豪華な衣装に身を包み、素敵な歌声で届けた。また、歌に合わせた一条流による日舞の披露や、ステージを降りて観客に手を振りながら歌う姿、手拍子や合唱を求める場面などもあった。最後は出演者全員で「島のブルース」の歌にあわせて、観客も一緒になり八月踊りの「さんだまけまけ」を踊り、賑やかに締めくくられた。

敬老の日に開催したことで、会場には地元の高齢者やその家族を中心に、奄美を代表する歌手を一目見ようと多くの観客が詰めかけ、奄美の歌心を満喫しながらも、歌の掛け合いや手拍子、踊りなど、観客も巻き込んだ笑いと熱気に包まれた賑やかなステージとなった。

出演者は次の10組(順不同)。中島章、平紀久美、福永則雄、森ミエ子、森博信、久志哲美、奥絹代、平清夫、別府勝成、一条流



(6) 龍文祭

日時：平成26年11月16日(日)

13:30~15:15

場所：屋内イベント広場 入場者数：約440名

内容：これまで町内のりゅうゆう館や町中央公民館で、「龍音祭」としてイベントを実施している龍郷町文化協会の協力で、奄美の郷ライブステージ「龍文祭」を開催した。

ステージ開演前は、志塾西郷塾による「愛加那物語」の紙芝居や、同町の紹介映像が大型ビジョンで映し出され、開演までの時間も有意義な構成となった。

ステージは協会の重田氏による司会進行で、オープニングに町民歌が歌われ、文化協会会長の伊勢勝義氏の挨拶を皮切りにステージが始まった。踊りでは、藤扇流龍郷支部、一条流寿扇会、隆柳勘大社中、琉球舞踊吉岡教室、フラカオ・スタジオが出演し、それぞれの洗練された踊りで、持ち味を存分に披露した。一方、歌では、芦徳コーラス、龍郷町混声合唱団、奄美新民謡教室、龍郷町島唄保存会が出演し、多彩なジャンルの歌を披露し、バラエティに富んだ内容となった。最



後は出演者と観客一体となった六調で賑やかに締めくくられた。

同協会の活動の様子を一目見ようと、島内だけでなく鹿児島本土からも観客が詰めかけるなど、会場は終始和やかなひととき包まれた。

また、ライブステージに併せて同協会所属の龍郷町短歌会、中央書道教室、塾西郷塾の作品の展示コーナーを設けたことで、多くの来園者に同協会の活動を紹介することができた。



(7) 奄美パークパフォーマンスバトル2015

日時：平成27年2月15日（日）13：30～16：00

場所：屋内イベント広場 入場者数：約600名

内容： 応募のあった13組の団体・個人がパフォーマンスを披露し、観客による投票で順位を決定する「奄美パークパフォーマンスバトル2015」を開催した。

出場者は、子どもから高齢者まで幅広い年齢層で、演目は島唄やダンス、詩吟、ハーモニカ演奏など多彩となり、白熱したバトルが繰り広げられた。

優勝は、タップダンスやモダンダンスを取り混ぜたステージを見事に演出したリッコモダンジャズバレエスタジオ。準優勝はフィットネススタジオサンビーム&COREで、年齢の差を感じさせない大人から子どもまで息のぴったりと合ったダンスを披露し、会場を魅了した。また、出場者の健闘ぶりが顕著であったことから園長賞を設け、地域で伝統文化である島唄を守る活動を続け、その成果を発表した篠川子ども会と、子育てに奮闘するお母さんたちのグループで、親子で映画音楽のコーラスを披露したフラワーガーデン♪を選出した。

昨年度に引き続き、出場者のジャンルもバラエティに富み、唄や楽器演奏のほか、ダンスだけでもフラダンスやモダンダンス、日本舞踊、ベリーダンスなど多種にわたる演目で終始楽しめる内容となった。

そのほか、ゲストとして出場した昨年度優勝のB→Matonds（ビーメイトンズ）は、今回も六調を取り入れた迫力のあるステージで観客を魅了した。

会場は応援に駆け付けた多くの観客でにぎわいを見せ、手拍子や口笛など来場者も一体になってのステ



ージは大いに盛り上がり、楽しい地域の交流の場とすることができた。

その他の出演者は、チカハワイアンフラハウオリア
イスタジオ、修武台吟詠奄美浩嶺会、ハーモニカサー
クル・そよ風、高千穂輝峰会、マカ・マカ・フラレア、
ベツチェいけもと、奄美フォークダンスクラブ、森田
佐喜雄、奄美カクテル



3 文化講演会

「生物多様性と奄美・琉球の世界自然遺産登録に向けて」

日時：平成27年2月1日（日）14：00～15：30

場所：屋内イベント広場 入場者数：約250名

内容： 本県は沖縄県と共に、「奄美・琉球」の世界自然遺産登録に向けた様々な取り組みを行っていることから、登録に向けた気運の醸成を目的に、テレビや雑誌等で活躍する生物学者で理学博士の池田清彦氏を講師に招き、自然や環境についての講演会を開催した。

同氏は、生物多様性とはどのようなことなのかや、その保全について、生態系と人間の共生が重要であり、地域資源として活用する方法を考えコントロールしていくことも大切と述べた。また、宮崎園長とのトークショーでは、講演を踏まえた園長や会場からの質問に答え、「生物多様性の保全で重要なのは固体を守るのではなく、環境を守ることが大事であり、地球の資源は生き物でシェアして生きていると考えてほしい」とまとめた。

同氏の軽妙な語り口に会場は終始笑いに包まれ、充実した内容にメモを取りながら聴講する人も多数おり、今後世界自然遺産登録を目指す奄美の指標となる講演会となった。



4 わきゃステージ in パーク事業

(1) 隆柳堪大と社中の舞・日置幸男&わらべんきゃ

(主催：隆柳流隆柳堪大)

日時：平成26年4月27日(日) 13:30~16:00

場所：屋内イベント広場 入場者数：約300名

内容：隆柳勘大主催によるライブステージ「隆柳勘大と社中の舞・日置幸男&わらべんきゃ」が開催された。

日本舞踊の出演者全員によるあでやかな舞を皮切りに全19演目の踊りを披露。ゴールデンウィーク最初の連休の開催でもあり、多くの観光客や地元の来場者が華やかな舞台を堪能していた。

また、日置幸男さんと小学生による島唄や新民謡も披露され、ステージの華やかさがさらに増していた。最後は、出演者に加え客席も一緒になって六調を踊り、笑顔あふれるステージは幕を閉じていた。



(2) 汝きゃ我きゃ島唄しよーろ

(主催：龍郷町島唄保存会)

日時：平成26年6月22日(日) 13:30~15:30

場所：屋内イベント広場 入場者数：約100名

内容：龍郷町島唄保存会によるライブステージ「汝きゃ我きゃ島唄しよーろ」が開催された。プログラムは、総勢約20名による島唄三味線での構成であった。

オープニングは、龍郷町島唄保存会の女性メンバーによる「朝花節」を披露。中盤は、小・中学生6名と会場の観客による島唄で、観客もマイクを手に馴染みのある「いきゅんにゃ加那節」を唄い、ステージと観客席との交流も見られた。出演者には、奄美パークわらべ島唄大会で入賞した子どもたちや龍郷町島唄大会・奄美民謡大賞などで入賞した唄者も数多くいた。最後は六調で締めくくられ、来場者は舞台上がって踊るなど会場は和気あいあいとした雰囲気にも包まれ、終始楽しいひとときを過ごしていた。



(3) あやまる会島唄あしび in 奄美パーク

(主催：県教職員共助会)

日時：平成26年7月6日(日) 13:30~15:30

場所：屋内イベント広場 入場者数：約230名

内容： あやまる会と県教職員共助会主催によるライブステージ「島唄あしび in 奄美パーク」が開催された。

子どもから大人まで幅広い年代の唄者約50人による島唄を中心とした内容で、島口（方言）小話の発表もあった。子どもたちが「朝花」でオープニングを飾り、共助会による「行きゆんにや加那」と続き、よいすら節やらんかん橋節、ワイド節などを披露。13年間出演し高校卒業を来春に控えた二人、住姫乃さんと平田まりなさんの若手唄者が会場を沸かせていた。また、日置三味線教室による子どもたちの島唄メドレーも会場を盛り上げていた。

会場には出演者の家族や地元の島唄ファンのほか多くの観光客も来園し、奄美独自の島唄の披露で奄美の魅力を情報発信していた。



（４）森田佐喜雄ハーモニカショー（主催：森田佐喜雄）

日時：平成26年11月2日（日）15：00～15：30

場所：屋内イベント広場 入場者数：約70名

内容： 奄美市在住の森田佐喜雄さん主催によるハーモニカショーが開催された。同氏は、福祉施設や病院でハーモニカを演奏するなどのボランティア活動もされている。

「埴生の宿」を皮切りに、たくさんのレパートリーの中から昔懐かしいメロディー全7曲を披露した。演奏曲は、歌謡曲や童謡、唱歌などジャンルも様々で、懐かしそうに微笑む方や演奏に合わせて歌詞を口ずさむ人など、来場者は、とても和やかなひとときを過ごしているようだった。



（５）奄美の島唄と沖縄芸能公演（主催：沖縄芸能協会）

日時：平成26年11月23日（日）

15：00～17：30

場所：屋内イベント広場 入場者数：約350名

内容： 沖縄芸能協会の主催による「奄美の島唄と沖縄芸能公演」のステージが開催された。

第一部では、奄美の島唄をあやまる会と花染め会のメンバー16人で唄った。渡しゃ節では踊り手も入場し、曲に合わせて踊りが披露される場面もあった。また、奄美のヨイスラ節は沖縄でも似た歌詞の唄があると



いうことで、沖縄の唄者が「白鳥節」を披露した。

第二部では、沖縄芸能協会の会員が出演した。古典音楽斉唱では総勢約30人の迫力で、唄、三線、笛、胡弓、太鼓を斉唱し、器楽合奏、独唱、舞踊と続いた。器楽の生演奏で踊られた華やかな舞踊では、会場はより一層沖縄ムードに包まれ、終盤では、鳩間節からカチャーシーと奄美の六調と似た手踊りが披露された。軽快な曲調には観客も思わず踊りだし、最後は奄美の六調が会場一体となって踊られ、ステージは最高潮を迎え終了した。

師範クラスの会員が集結した同協会の貴重なステージを一目見ようと、詰めかけた大勢の観客は古典音楽の合奏や華やかな琉球舞踊に魅了し、奄美と沖縄の文化交流がますます盛んになることが期待される内容であった。



(6) 若葉のころ (主催：楠田哲)

日時：平成27年3月8日(日) 13:00~16:00

場所：屋内イベント広場 入場者数：約230名

内容：楠田哲さん主催によるライブステージ「若葉のころ」が開催された。

内容は10代から20代の出演者を中心としたバンド演奏やラップなど。j a * f r a, 柳原樹菜, U n u s u a l l y, H e i s e i Y o u n g, P E R R Y", G U E V A R A, ハンバーグハンバーグ, H O N Uなど9組が出演し、それぞれの弾き語りやパフォーマンスを披露したほか、ステージの合間には高校生トリオのコントやもあり、観客の笑いを誘う場面もあった。

学生や家族連れなど多数の観客が詰めかけ、若者たちのステージに温かい拍手が送られ、会場は終始賑やかな雰囲気に包まれていた。



5 その他の自主事業及び共催事業

(1) 春休み中学生以下限定抽選会

期間：平成26年3月21日（金）～4月7日（日）

場所：奄美の郷 期間中の参加者数：78名

内容：春休み期間中の集客を図る目的で、奄美パークの観覧券を購入した中学生以下を対象に「春み中学生以下限定抽選会」を実施した。

当たりの景品に奄美パークのロゴ入りオリジナルメモ帳を加えたところ、とても好評であった。このメモ帳には、奄美パークのホームページアドレスのQRコードを印字し、スマートフォンなどの携帯情報端末を用いて、奄美パークのサイトに簡単にアクセスできるようにした。

(2) 中学生以下限定抽選会（ゴールデンウィーク）

期間：平成26年5月3日（土・祝）～平成26年5月4日（日）

場所：奄美の郷 期間中の参加者数：32名

内容：ゴールデンウィーク期間中の集客を図ることを目的として、奄美パークの観覧券を購入した中学生以下を対象に「中学生以下限定抽選会」を実施した。

今回初めての試みとなったゴールデンウィーク中の開催は、たまたま訪れた島外からの観光客も、楽しそうに抽選器をまわす姿が見られるなど好評であり、今後の集客対策の参考となった。

(3) 2014 FIFAワールドカップブラジルパブリックビューイング

日時：平成26年6月15日（日）9：30～12：00

場所：屋内イベント広場 入場者数：約120名

内容：サッカーW杯ブラジル大会でコートジボワールとの初戦に臨む日本代表の試合を大型スクリーンで観戦するパブリックビューイングを開催した。

大雨のこの日、試合を観戦しようと詰めかけたサポーターやサッカーファンらは、日本代表のユニホームを着たり、日本代表をイメージする青色の旗などを持ってブラジルへ向け熱い声援を送った。前半、日本が先制すると割れんばかりの歓声が上がり、ハイタッチをしながら会場の熱気は最高潮となった。後半は立て続けの失点で逆転され、日本の再逆転を信じて試合終了の笛が鳴るまで声を張り上げた。

試合終了後の会場は逆転負けで悲鳴とため息が交錯していたが、次のギリシャ戦での勝利を願う地域のサポーターたちは、家での応援と違う大勢での応援で感動も共有しているようであった。

(4) クイズラリーミッション

期間：平成26年6月1日（土）～平成26年6月30日（月）

場所：奄美の郷内 参加者数：約90人

内容：雨の多い梅雨時期に室内でも楽しめるように「けんむんクイズラリーミッション」とい

う企画を実施した。

クイズラリーは、無料ゾーンのみでも楽しめるように問題を配置し、できるだけ多くの子どもたちが参加できるよう工夫した。全問正解した子どもには文房具等の景品を提供、全問正解をしなかった子どもには参加賞としてケンムンシールを提供した。さらに、このクイズラリーの答えから導き出されたヒントでクイズに解答して抽選に申し込みができるようにした。期間終了後には抽選を行い、申込みのあった正解者の中から3人に景品を提供した。

親子や友達同士でクイズを楽しむ姿が見られ、期間中に行ったアンケートではとても楽しかったという意見が多くみられた。

(5) 第4回ケンムンふえすた

日時：平成26年7月27日（日）13：30～15：45

場所：屋内イベント広場 入場者数：約350名

内容：世界自然遺産登録推進に取り組む奄美において、伝説として語り継がれる存在でケンムンと呼ばれる妖怪をとおり、自然や文化の奥深さを探り、住民の皆さんが島の自然・文化に目を向けるきっかけとなることを目的に、また、奄美の情報発信を目的としたイベント「ケンムンふえすた」を一般財団法人南西地域産業活性化センター及びホライゾン編集室と共催で開催した。

平田まりな&辻美里さんの二人が、イベントの始まりによく唄われる朝花節を唄ってフェスタは始まり、テンポが速く賑やかな「イトウ」、そして昨年度、円順次氏が作詞、坪山豊氏が作曲してお披露目となった「出でよ、ケンムン」を唄って華やかなオープニングとなった。

続いて、奄美図書館主催のネリヤカナヤ創作童話コンクールにおいて第10回記念大賞を受賞された作品で、当時龍郷町立龍瀬小学校2年の原田ゆうき君の「森のドライブ」という作品を紙芝居にして、それを奄美図書館の職員が朗読するネリヤカナヤ創作童話シアターを行った。なくなってしまった車の材料を森の中へ探しに出かけ様々な動物と出会い、ケンムンとの出会いもあり、最後にみんなでドライブをするという楽しい物語であった。

引き続き、第4回ケンムンイラスト・写真コンクールの授賞式を行った。毎年恒例となっているコンテストには両部門あわせて534点の応募があり、年々作



品に趣向が凝らされてきておりレベルの高い作品も多くみられた。今年は新たに学校賞を設け、これまでたくさんの作品を応募している学校や受賞者の多い学校などから10校を選定し授賞した。

続いて、濱田洋一郎&商工水産ズの皆さんによるバンド演奏で、第1回目に作っていただいた「King Moon」、島のバスをPRする「島バスにのって」、大浜のタラソをPRする「竜宮城へ行ったなら♪」をばしゃ山村のゆるキャラ「ケンケン&ムーン」とともにダンスを交えて披露した。会場も楽しい雰囲気誘われ踊ったり、拍手などで盛り上がっていた。

地元沖縄のみならず全国的に有名となっている御当地ヒーロー「琉神マブヤー」の映像の放映に続き、琉神マブヤーを生み出した株式会社南西産業代表取締役の畠中敏成氏をメインゲストにお招きしてトークショーを行った。トークショーでは同氏と沖縄大学地域研究所特別研究員の島田勝也氏にマブヤーの誕生のきっかけや沖縄の文化や伝統とのつながりなどをケンムンふえす実行委員会会長の宮崎緑園長が伺った。「キジムナーとマブヤーがどのようなつながりがあるかに答えを出したら面白くない。奄美の人が大事にしているもの、そしてそれをどういう風に育てていこうかという人がいっぱい出てきたときにケンムンとマブヤーとつながっていくのではないかな。また、そのような人たちがたくさん出てくることを期待したい」とまとめた。

トークショー終了後には琉神マブヤーが実際に登場し会場を沸かせ、ハイタッチ会で子どもたちと触れ合った。

最後に、イラストコンテスト受賞者によるバスへの作品のラッピングを行い、バスの前で琉神マブヤーとの記念撮影を行った。

会場は、琉神マブヤーの登場を待つ子どもたちやその家族などで終始賑わっていた。



(6) 夏休み中学生以下限定抽選会

期間：平成26年7月20日（日）

～平成26年8月31日（日）

場所：奄美の郷 参加者数：739人

内容： 夏休み期間中の集客を図ることを目的に、奄美パークの観覧券を購入した中学生以下を対象に「夏休み中学生以下限定抽選会」を実施した。

福引の結果を親子で一喜一憂する姿が見られたり、何回もやりたいという声が多数寄せられるなど大変好評であった。

（7）皆既月食観察会

日時：平成26年10月8日（水）17：00～21：00

場所：奄美の郷2階テラス 入場者数 約140名

内容： 満月が地球の影に入る皆既月食が、約3年ぶりに全国各地で観測できる予定であったことから、皆既月食観察会を開催した。

満月が地球の影にすべて隠れる食の最大が午後8時前を予定していたこの日は、閉園時間を午後9時まで延長し、2階テラスと野外の多目的広場を解放した。満月がかけ始める前の時間帯には赤木名中学校の理科の教諭に依頼して、早く集まった来園者を対象に、月食の仕組みや星座などの天体についての解説を行った。

台風の影響もあり風が強く、時折雲の流れる天候で、部分食の前半と皆既になってからしばらくは、見えたり見えなかったりであったが、皆既の後半からは雲も少なくなり、きれいな月食が観測できた。奄美の天文ファンや家族連れが多く集まり、秋の夜空を見上げ熱心に観察を続ける方や、珍しそうに天体望遠鏡をのぞく子ども、赤銅色の月を必死にレンズに収めようとする大人などの姿が見受けられた。

なお、レストランも午後9時までの営業で、月にちなんだメニューの提供もあり、食事を取りながらの皆既月食観察も好評を博していた。



（8）文化の日イベント

日時：平成26年11月3日（月・祝）

①昔あそび体験 1部10：00～12：00

2部13：30～15：30

②ケンムンクイズラリー 終日

③田中一村ちびっ子鑑賞会 10：00～11：00

場所：①屋内イベント広場 ②奄美の郷

③田中一村記念美術館

入場者（参加）数：①約150名 ②61名 ③12名



内容： 文化の日は観覧料を無料としており、この機会に奄美パークをさらに身近に感じていただく目的に「文化の日イベント」を開催した。

奄美手熟師会の指導の下、「昔あそび体験会」を開催し、参加した親子たちが、竹とんぼや草笛、わらじづくり、ナリ細工などの製作を体験したほか、奄美パーク職員の指導で蘇鉄の葉を使った小物製作や、結束バンドを使った「ゆびハブ」製作などを体験した。

また、総合展示ホール及びアイランドインフォメーションの展示物に興味を持ってもらえるよう実施している通年事業の「けんむんクイズラリー」では、有料の展示ホールを無料解放したことで、多くの子どもたちがクイズにチャレンジしていた。

田中一村記念美術館では、学芸専門員が親子連れを対象に、「田中一村ちびっ子鑑賞会」を開催し、田中一村の生い立ちや作品などの解説を行った。学芸専門員による参加者への説明だけでなく、参加者からも感想や質問が出され、一村とその作品への理解を深めていただくことができた。また、日頃、入ることのできないバックヤードや館長室の見学会も実施し、美術館をさらに身近に感じてもらうことができた鑑賞会となった。

無料開放のこの日は、体験やクイズを楽しむ家族、普段見ることのできない美術館の裏側に興味を示す家族などたくさんの親子連れでにぎわい、イベントを通じて奄美の文化を再認識してもらうとともに奄美パークの展示や機能を理解してもらえる機会になった。



(9) 第8回奄美パーク子どもクリスマス会

日時：平成26年12月14日（日）

午前の部 10:00～11:30

午後の部 14:00～15:30

場所：屋内イベント広場

入場者数：午前の部 約1,800名、

午後の部 約1,700名

内容： 冬休みやクリスマス間近のこの時期に子どもたちにクリスマスを楽しんでもらうために「第8回奄美パーク子どもクリスマス会」を開催した。



ステージ最初は、地元で活躍するマジシャンのミスタードラゴンの登場で、次々と繰り広げられるマジックに歓喜の声が上がった。また、昨年に引き続き出演したゲルドレンは、運動会をモチーフにしたダンスパフォーマンスを披露し、コミカルな動きに子どもたちの笑いを誘った。続いて、今年初めて出演依頼した奄美看護福祉専門学校のこども・かいご福祉学科の生徒によるレクリエーションでは、子どもたちに大人気の「妖怪ウォッチ」のゆび遊びやクイズなどで会場が盛り上がり、「妖怪ウォッチ体操」では子どもたちが楽しそうに踊る姿がみられた。

最後の抽選会では、今年も奄美大島内の企業から多くの景品を提供いただいたことで、ステージに並べられたたくさんのプレゼントに子どもたちは湧き上がり、司会者が当選番号を読み上げるたびに会場は歓声とため息に包まれた。なお、クリスマス会は、最後に抽選に外れた子どもたちにお菓子を配布し終了した。

会場は、午前の部、午後の部とも入りきれないほどの家族連れに恵まれ、大変賑やかな一日となった。



(10) 冬休み中学生以下限定抽選会

期間：平成26年12月23日（火・祝）

～平成27年1月12日（月・祝）

場所：奄美パーク 参加者数：91人

内容：冬休み期間中の集客を図ることを目的に、奄美パークの観覧券を購入した中学生以下を対象に「冬休み中学生以下限定抽選会」を実施した。

抽選にはずれてもお菓子がもらえたことから、喜ぶ子どもたちが多く見られた。

第4 田中一村記念美術館企画事業

1 奄美関連作家展及び招待作家展

(1) 秋田淳之助

・ニッコールクラブ奄美群島支部合同写真展

期間：平成26年3月30日（日）～4月20日（日）

場所：企画展示室 期間中の入館者数：1,835名

内容：秋田淳之助氏は2009年、72歳で逝去。奄美市美展の写真部門の審査に関わった縁から、奄美のガジュマルの撮影に足掛け3年取り組んだ。秋田氏が写した原始より続く巨大な森の生命の姿と、ニッコールクラブ奄美群島支部会員が多角的に写す進行形としての奄美の姿を併せた合同写真展を開催した。

秋田氏のモノクロ写真29点と本人が使用していたカメラ1点、ニッコールクラブ会員のモノクロ写真32点を展示した。

また、初日には、写真家で秋田氏夫人の秋田好恵氏と、昆虫写真家でニッコールクラブ顧問の海野和男氏を招いてフロアトークを行った。

来館者から「カラーの草花が白黒の写真になると神秘的な要素が加わって心奪われ引き込まれた」「ガジュマルの霊気と生命力・力強さを実感した」「これまであまり馴染みのなかった世界を知ることができた」などの感想を得るなど多くの来館者を魅了した。



(2) 5の会展

期間：平成26年4月27日（日）～5月18日（日）

場所：企画展示室 期間中の入館者数：4,118名

内容：「5の会」は、若い画学生の頃より同じ美術を志す仲間として知り合い、また高校の美術教師として互いに交歓し、切磋琢磨してきた作家によって構成されているもので、会員である5人の作家は、それぞれ精力的に創作活動に取り組み、県内外で作品を発表している。

日本画5点、洋画14点、彫刻6点を展示。会派や表現方法も違い、島内ではなかなか鑑賞できない作品を味わえる展示会となると期待し、奄美の芸術文化振興活動に寄与するものと考え開催した。

初日は、5人の作家、西村康博氏、竹道久氏、米田



安希氏，前田芳和氏，米倉秀一氏を招きフロアートークを行った。

来館者から「5名の先生方の各々異なった作風に感動しました。立派な展示会，今後とも続けてほしい」「熟練の方々の作品を鑑賞し，それぞれの個性を感じとれる展示会でした」との声が聞かれるなど，皆感心されていた。



(3)「島色」編衣と写真展

期間：平成26年7月6日（日）～7月27日（日）

場所：企画展示室 期間中の入館者数：1,931名

内容：奄美市笠利町出身で2000年から紬糸を用いて奄美をイメージした独自の作品を編み始め，奄美大島繊維開発研究員としても活動している森エイ子氏の作品と，大島高校卒業後，東京工芸大学短期大学部写真学科を経て，いくつかの写真スタジオを経験し，その後独立，フリーカメラマンとして活動している屋宮秀美氏の作品を展示した。

二人の作品を同時に展示することで，それぞれの奄美への思いが交差する表現空間を演出できると考え展示会を開催した。

島内外から多くの来館者があり，「写真と編み物の展示，とてもとけ込んで統一感のある空間と美しさに感動しました」「奄美の自然，写真の構成の素晴らしさに感動し，大島紬の絹糸の輝としなやかさに目を奪われた」などと，二人の作品に感心しながら熱心に鑑賞していた。



(4)名瀬美術協会・AJAC交流展

期間：平成26年8月3日（日）～8月31日（日）

場所：企画展示室 期間中の入館者数：2,318名

内容：奄美群島内の美術愛好者の親睦を深め，作品制作を通して奄美の自然や文化を島内外に発信している名瀬美術協会と，具象や抽象，平面，立体などの既成的な枠組みに縛られず，作家が自己の世界を自由に表現した作品を制作している現代美術の美術家組合AJAC (All Nations & Japan Artists' Co-operation) との交流展を開催した。

名瀬美術協会26点，AJAC56点，計82点を



展示。地元の名瀬美術協会と島外のAJACとの交流展で、美術表現の可能性や広がりを楽しむだけでなく、奄美の芸術文化や自然、伝統などを発信する機会にもなり、奄美の表現者の活動への良い刺激にもなった。

また、開催初日には、各会員らによるフロアトークを行い、油彩や水彩、写真など様々な作品が並び、一つ一つ眺めながら作品に込めた思いや表現方法などについて語り合うことができた。



(5) 木下晋絵本原画展

期間：平成26年12月21日(日)

～平成27年1月12日(月・祝)

場所：企画展示室 期間中の入館者数：1,339名

内容：22段階の鉛筆を駆使した精緻な描写で知られる画家・木下晋氏の絵本原画展を開催した。

木下氏の作品は、子どもだけでなく、大人にもやさらぎや生きる上での示唆を与えてくれる。絵本の原画から精緻な描写と物語の世界に触れていただくことを目的とし、母との旅や老夫婦、パンダなどを題材にしたモノクロームの味わい深い作品53点を展示した。

また、初日には、オープニング記念芸術文化講演を開催。木下氏が、作品誕生秘話や田中一村と奄美の関係についての見解を語った。

期間中は島内外から多くの方が訪れ、「凄いの一言。懐かしく、温かく感じました」「鉛筆で描いたとは思えないほど細かく、豊かな表現に驚きました」などと、木下氏の世界を堪能していた。



(6) 奄美の作家3人展

期間：平成27年1月25日(日)～2月15日(日)

場所：企画展示室 期間中の入館者数：2,333名

内容：奄美という地理的な不便さの中で精力的に創作活動に取り組み、島内外で作品を発表している作家、井上伸久氏(独立美術協会準会員、県立奄美高等学校教諭)、宍野寛氏(南日本美術展吉井賞受賞、県立大島高等学校教諭)、鈴木るり子氏(国画会会友、シマユムタ伝える会)の作品展を開催した。作品展は、大作を鑑賞する機会が少ない奄美の人々にとって、100号前後



の作品は圧倒的な迫力を持つに違いなく、島外からの来館者にも奄美の素晴らしい作家を紹介するとともに、島内の美術愛好家を中心とした文化活動への貢献が期待できると考え開催した。

会期中の2月1日(日)には、作家3人を招いてフロアトークを行った。それぞれが自らの作品を解説し、画風の変遷や創作活動での苦心談も紹介した。

来館者から、「これほどの力作を奄美で鑑賞できた事に感動しました」「3人の作者の世界が何とも言えぬ雰囲気醸し、素晴らしさに酔ってしまった」などの感想を得るなど、多くの来館者を魅了することができた。また、それぞれが所属する団体やテーマ、作風が異なり、幅広い絵画表現を味わえる展示会とすることができた。



2 県美展奄美関連作家展

期間：平成26年6月8日(日)～6月29日(日)

場所：企画展示室 期間中の入館者数：1,908名

内容：第61回県美展において入選、入賞した奄美関連作家らの作品、洋画19点、日本画1点、写真15点の合計35点を展示し、島内外の美術愛好家に紹介するとともに、奄美群島の芸術発展に寄与することを目的に開催した。

初日には、作家によるフロアトークを行い、出席した21名の作家が作品について解説した。

今回、奄美群島から出品し、県美展大賞をはじめ、南日本新聞社賞、会員賞、会員推挙等を受賞した作品や多数の入選作品に加えて、田中一村記念美術館賞の作品も展示し、多くの来館者を魅了することができた。



3 田中一村記念スケッチコンクール作品展

期間：平成26年9月20日(土)～10月5日(日)

場所：企画展示室 期間中の入館者数：1,225名

内容：奄美群島内の幼児、小・中学生を対象に、奄美の自然や生活、行事などをテーマにスケッチ作品を募集し、応募のあった561点の作品から、入選、入賞した304点を展示した。



展示期間中は受賞者の家族や関係者、観光客など多くの来館者があり、子どもらしい自由でのびのびとした感性が感じられる作品は大変好評であった。

なお、10月4日（土）午前11時から授賞式を開催し、受賞した児童生徒6名とその家族の参加があり、賞状と記念品を受け取った受賞者らはとても嬉しそうであった。



4 第13回奄美を描く美術展

(1) 本展

期間：平成26年10月26日（日）～11月23日（日）

場所：企画展示室 期間中の入館者数：3,751名

内容：当美術展は、全国の美術を愛好する方々が奄美を訪れ、奄美の風物や文化に接し、作品を発表する機会を提供するとともに、奄美の文化振興、観光の発展に寄与することを目的として開催している。

第13回目となる今回は、全国から119点の作品（油彩、日本画、水彩、アクリル、手編み、ちぎり絵、切り絵、木彫、CG）が寄せられ、その中から入賞12点、入選51点の合計63点を展示した。

審査員長柏健氏（国画会会員・元金沢美術工芸大学大学院博士課程専任教授）は、「明快な色調、色調の組み合わせや響き合いが、奄美の澄んだ空気を感じさせた。写実、抽象などのジャンルや油彩、水彩などの表現方法が多彩で、絵が好きだ、絵に情熱を注いでいる、描きたいことを考えながら描いているということがどの作品からも伝わってきた。また、県外からの出品者も多く、出品者の年齢や経験も多様であった。本展の益々の盛り上がりを期待したい」と総評した。

来館者は、地域や年齢など幅広い層の出品者らの個性豊かな作品をじっくりと鑑賞していた。



(2) 巡回展

期間：平成26年12月7日（日）～12月14日（日）

場所：天城町立ユイの館

期間中の入館者数：約250名

内容：4年前に徳之島町からスタートした「奄美を描く美術展巡回展」は今年度で5回目となり、知名町、与論

町，喜界町と巡り再び徳之島での開催となった。

今回は，天城町立ユイの館で開催となり，本展の入賞12点，入選13点の計25点の作品を展示した。同館の職員や町教育委員会の方々の協力により，素晴らしい展示会とすることができ，来場者からは，「迫力のある美術作品を見ることができ，とても嬉しい」「天城町では絵画を見る機会が少ない。こうした機会を設けていただきありがとうございます」という声などが聞かれた。



(3) 入選・入賞作品



奄美を描く美術展大賞

「絨への想い」

F 1 5 油彩 岡山 良治（龍郷町）

デフォルメされた手と無機的な絨の柄が画面の中で効果的に響き合っている。

鮮やかに構成された色彩から清澄感と絨への情熱が伝わってくる。

田中一村記念美術館賞

「食」

S 1 5 墨絵 池上 武男（長野県）

白と黒で構成された明確な構図の中に、右下の目の細かい描写など実写的な要素も加え、効果的に表現を支えている。一気に描かれた勢いと緻密な計画性を併せもっている。



優秀賞

「陽春」

F 1 5 油彩 松平 サヨ子（喜界町）

燃りあわさった毛根の不思議なフォルムを中央に配置し、太い幹をゆったりとバランス良く配置している。色彩からも空気感が伝わる作品である。



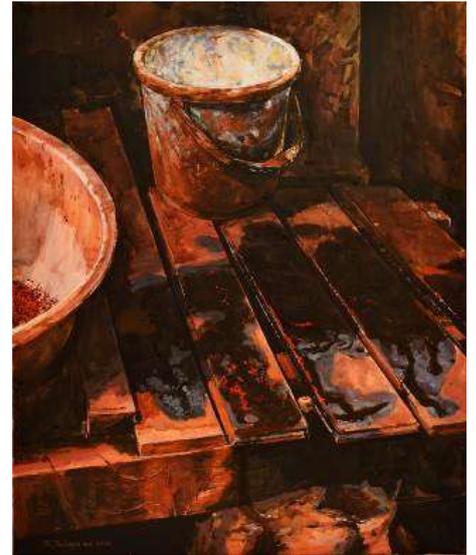


優秀賞

「奄美の海」

S10 紙 崎長 史（千葉県）

朦朧とした紙で覆われたところとそこからのぞく色面の構成が整理され美しい。色の組み合わせも効果的である。



優秀賞

「作業場の片隅」

F15 水彩 高山 法雄（熊本県）

全体の構成を支えるデッサンが素晴らしい。バケツ周辺の白と床に流れる液体の暗色の対比が魅力的な作品である。

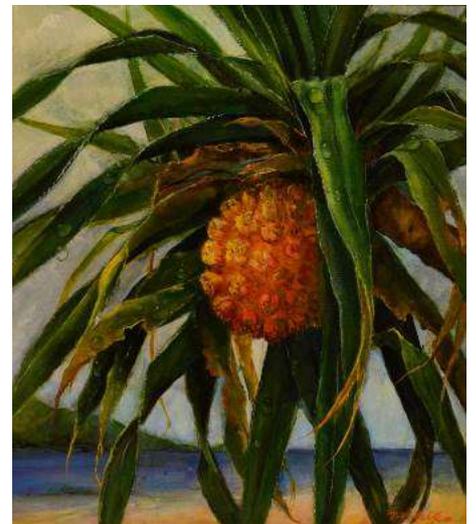


優秀賞

「白い花…静と動」

F15 日本画 重村 敏光（奄美市）

意図が明快で計画的にどよみなく描きあげている。色で分割された背景，単色で表現された花や葉が抽象性を高めている。



優秀賞

「島の香り」

F10 油彩 池田 三樹子（奄美市）

描く力，見る力，基本的なデッサン力がしっかりしている。アダンや葉の無駄のない表現がインパクトを与える。

佳作・奄美の海賞

「海のかなた」

F15 油彩 木下 昌之（鹿児島市）

着物の柄を含めた紺、それと組み合わせられた白が構成に生かされている。人と海の境など細かい表現も魅力的である。



佳作・奄美の空賞

「龍になったガジュマル」

F15 アクリル 天美 みずほ（埼玉県）

自然な発想を構成的に表現している。写実的な要素と図案的な要素をバランス良く組み合わせた作品である。

佳作・奄美の杜賞

「木漏れ日を浴びて」

F15 油彩 中野 長子（奄美市名瀬）

色彩と厚塗りの表現が印象的な作品である。大きな表現と繊細な表現がうまくかみ合っている。



ヤング賞

「そこには…」

F15 油彩 竹内 夢希（喜界町）

青みがかった色調が美しい。指と目が印象深く動作も効果的である。若者の素直さ、しなやかさを感じる作品である。

シルバー賞

「築山の風景」

F15 油彩 牧野 ハツエ（伊仙町）

ゆったりしたリズムで丁寧に表現された作品である。色調が整い、澄んだ空気を感じる。描く喜びが伝わってくる。



【審査評価】

明快な色調、色調の組み合わせや響き合いが、奄美の澄んだ空気を感じさせた。写実、抽象などのジャンルや油彩、水彩などの表現方法が多彩で、絵が好きだ、絵に情熱を注いで、描きたいことを考えながら描いているということがどの作品からも伝わってきた。また、県外からの出品者も多く、出品者の年齢や経験も多様であった。本展の益々の盛り上がりを期待する。

審査委員長 柏 健（国画会会員・元金沢美術工芸大学大学院博士課程専任教授）

5 その他企画展

龍郷町立小・中学校図画工作・美術科学習発表展

期間：平成26年11月30日(日)～12月14日(日)

場所：企画展示室 期間中の入館者数：1,280名

内容： 授業で制作した作品を美術館に展示することにより、児童生徒の創作活動への興味・関心、意欲を高めるとともに、美術館を身近に感じてもらう機会となり、さらに、参加校にとっては、保護者や地域住民に学校の学習内容や児童生徒の様子を理解してもらうことができ、指導内容等についての情報を交換の場となることなどを期待し開催した。

龍郷町立の小学校7校、中学校3校の絵画・立体などの作品を展示した。生き生きとした子どもらしい発想で、のびのびと表現した作品を前に、来場者からは、「他校行の生徒の作品にも触れ合えたので、良い機会を設けていただき、とてもありがたい」「我が子の作品がたくさんの人に見られるというのも良い事だと思いました」などという声が聞かれた。



6 芸術文化講演会及び美術講演

木下晋絵本原画展オープニング記念芸術文化講演

期間：平成26年12月21日(日)

10:30～11:30

場所：レクチャールーム、企画展示室

参加人数：25名

内容： 鉛筆画の第一人者と知られる木下晋氏の絵本原画展のオープニング記念として、芸術文化講演会を開催した。

同氏は、奄美に初めて来たのは約40年前であることや、以前から田中一村には興味があり、展覧会にも欠かさず見に行くと語った。

また、田中一村が単なる異端の画家ではないことや、一村は奄美に来てから急速に変化していることなど、一村と奄美の関係についても独自の見解を語った。

なお、講演会の後はギャラリートークもあり、作



品を説明しながら、若い人にもお年寄りのことを伝えたく昭和の時代背景に描いたと語り、自身の作品誕生秘話や作品作りについても話した。

7 創作体験教室ほか

(1) 創作体験教室・楽しい色紙絵「奄美を描こう」

日時：平成26年4月29日(火・祝)

10:00~16:00

場所：レクチャールーム 田中一村記念美術館

参加者数：16名

内容： 当美術館初代学芸専門員で県立川辺高等学校非常勤講師の西村康博氏を講師に招き、日本画の創作体験教室を開催した。

まず、植物や野菜、果物などの題材を決め、木炭で下書きをした。その後、墨で輪郭を描き、日本画水性絵具を使い、それぞれの感性で彩色を施し、作品を完成させた。活動の終わりには、完成した作品に西村氏が講評を行い、互いの作品を鑑賞した。

参加者は、西村氏の指導を受けながら、熱心に創作活動に取り組み、一人ひとり個性あふれる作品を作り上げた。



(2) 一村・子どもワークショップ

日時：平成26年7月26日(土) 9:00~13:00

場所：レクチャールーム 田中一村記念美術館

参加者数：21名

(小学生：8名 中学生：5名 協力者：8名)

内容： 小中学生の希望者を対象に、郷土の自然を題材にした絵画に親しむとともに、自分で考えたことを伝える力の向上を図るために、教科書にも取り上げられた田中一村の作品を鑑賞し、作品のよさや感じ取ったことを伝える活動を行った。

小学生は日本語で、中学生は英語でスピーチを行うことで、さらに、お互いの感想を分かち合うことができた。

子どもたちからは、「いろいろな絵の見方を学ぶことができてよかった」「田中一村のことや田中一村の



絵について知ることができた」「一枚の絵からいろいろメッセージを伝えること、受け取ることができるのだなと思った」などの感想を得た。

(3) 夏休み親子「泥染体験」

日時：平成26年8月17日（日）

1部 10:00～12:00

2部 13:30～15:30

場所：田中一村記念美術館 管理棟

参加者数：25名（保護者を含む）

内容： 奄美の伝統工芸である泥染の良さや楽しさを味わってもらうことを目的に、奄美市笠利町の「工房しまむたび」代表の植田正輝氏を講師に招き、泥染体験を行った。

参加した9家族が、それぞれ持参したハンカチやTシャツに筆やスポンジを使ってシャリンバイの樹液で模様をつけた後、実際に泥染を体験した。参加者は、シャリンバイや泥のつけ方で色や模様が変わっていく様子に大変喜び、自分で染めた作品に満足げな表情を見せていた。

夏休みの課題としても提出できる作品が完成し、泥染の良さや楽しさも味わってもらうことができた。



(4) 田中一村作品鑑賞会

日時：平成26年9月7日（日）10:00～12:00

場所：レクチャールーム・田中一村記念美術館

参加者数：5名

内容： 9月11日の一村忌（田中一村の命日）を控え、美術館学芸専門員による解説を交えた田中一村作品の鑑賞会を行った。

奄美の郷レクチャールームにおいて、一村の生涯について、東京時代、千葉時代、奄美時代に分けて説明した。その後、一つの作品を参考に、絵を鑑賞する際のポイントについて解説した。次に、美術館に移動し、今度は一村の作品とその生涯について、実際の作品を前に東京時代、千葉時代、奄美時代に分け、年代順に作品の変化が捉えやすいように解説した。最後に、まとめとしてガイダンスルームでビデオを視聴した。



参加者は、絵を丹念に見たり、熱心にメモをとったり、質問しながら、一村の作品や生き方について理解を深めていた。また、一村の絵について深く味わうことができた満足げな表情を見せ鑑賞会終了後も参加者同士で話し合う姿や再び展示室に向かう姿が見られた。



(5) 創作体験教室「人物画講座」

日時：平成27年3月7日（土）・8日（日）

10:00～16:00

場所：企画展示室 受講者数：18名

内容：西健吉先生（鹿児島県立松陽高等学校教諭・二科会理事・鹿児島県美術協会会員）を講師に招き、奄美で美術活動を行う人たちのスキルアップを目的に、創作体験教室「人物画講座」を開催した。

まず、クロッキーやデッサンにより女性モデルの特徴を捉え、続いて、油彩や水彩、パステル等で人物画の制作に取り組んだ。受講者は皆真剣に取り組み、西先生から個々の絵に対する細かい助言を受け入れながら、一人ひとり個性あふれる作品を仕上げた。

最後に完成した作品に西先生が講評を行い、受講者は互いの作品を鑑賞した。



夜ネバ、島ンチュ、奄美パーク
りスペクチュ!!

本場奄美 島唄

ソノマの魅力 再発見!!

会場は島人に数多き!!

2014.6.1 (日) 午後1時30分から

奄美パーク 奄美文化センター

2014 FIFAワールドカップ ブラジル
パブリックビューイング

2014.6.15 (SUN)

13:30~15:30

奄美パーク 奄美文化センター

しまなみ
ミニライブ

2014.6.13(日) 13:30~14:00

奄美パーク 奄美文化センター

夏色
ラフソディ

平成26年9月15日(月) 午後4時30分

奄美パーク 奄美文化センター

龍文祭

平成26年11月16日(日) 13:30~15:15

奄美パーク 奄美文化センター

奄美パーク
パフォーマー
バトル
2015

平成27年2月15日(日) 13:30~15:30

奄美パーク 奄美文化センター

生物多様性と
奄美・琉球の
世界自然遺産登録に向けて

講師：池田清彦

日時：平成27年2月1日(日) 14:00~15:30

場所：奄美パーク屋内イベント広場

奄美パーク 奄美文化センター

梅雨は屋内で遊べる奄美パーク
へ行こう!!

けんけんクイズラリー
ミッション

平成25年5月25日(土) ~ 平成25年6月30日(日)

奄美パーク 奄美文化センター

第4回
アヒルふすた

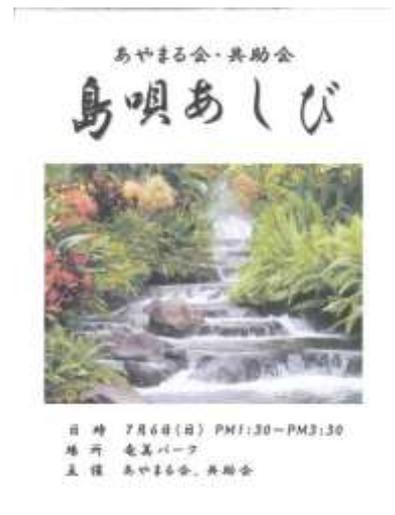
日時：平成26年7月27日(日) 13:30~15:30

場所：鹿児島県奄美パーク屋内イベント広場

奄美パーク 奄美文化センター



<わきゃステージ in パーク事業>



<田中一村記念美術館企画事業>

秋田淳之助
「原画展」

ニッコールクラブ
絵美群島支部

合同写真展

平成26年8月3日(日)～4月20日(日)

田中一村記念美術館 企画展示室

5の会展

ARTISTS

生 達夫 THE WICKED
岡田 安寿 MIRA TAKAI
西村 達博 HIDEAKI YAMASHIRO
中島 光一 TORIYUKA FUJISAKI
中島 賢助 MAEDA YOSHIFUJII

平成26年8月27日(日)～9月15日(日)

田中一村記念美術館 企画展示室 観覧無料

shimairo

編衣と奄美と

二人展
編衣 柳子イ子
写真 尾宮秀美

「藍色」編衣と浮良展
平成26年7月6日(日)～7月27日(日)

田中一村記念美術館 企画展示室 観覧無料

名瀬美術協会・AJAC交流展

平成26年8月3日(日)～8月31日(日)

開催時間 9:00～19:00(最終日16:00)

田中一村記念美術館企画展示室 入場無料

【出展アーティスト】
アロアアーティスト (再展による作品説明)
日時 8月3日(日) 14:30～

木下晋
絵本原画展

「いのちの力」「ハルもあそびの手」は童話作

会期：2014年12月21日(日)～2016年1月12日(月)

開催時間 9:00～18:00(最終日16:00) 休館日：1月7日(水)

会場：田中一村記念美術館 企画展示室
観覧料 無料

関連イベント オープニング記念芸術文化講座 講師：田中一村記念美術館

奄美の作家3人展

ARTISTS

村上 敏夫 TOSIYUKI MURAKAMI
中島 光一 TORIYUKA FUJISAKI
中島 賢助 MAEDA YOSHIFUJII

平成27年1月25日(日)～2月15日(日)

田中一村記念美術館 企画展示室 観覧無料

県美展
奄美関連作家展

平成26年6月8日(日)～29日(日)

休館日 6月16日(水)

開催時間 9:00～18:00
観覧料 1,000円 中学生以下 500円

田中一村記念美術館企画展示室
入場無料

フロアートーク
6月8日(日)10:30～

田中一村記念
スケッチコンクール作品展

9月20日(土)～10月5日(日)

休館日 10月1日(水)

開催時間 9:00～18:00
観覧料 1,800円 中学生以下 900円

田中一村記念美術館 企画展示室
入場無料

展期延長 10月4日(土)18:00 企画展示室

奄美を描く美術展

ARTISTS

中島賢助 MAEDA YOSHIFUJII
中島光一 TORIYUKA FUJISAKI
村上敏夫 TOSIYUKI MURAKAMI

平成26年10月11日(日)～11月22日(日)

開催時間 9:00～18:00(最終日16:00) 休館日：11月17日(水)

会場：田中一村記念美術館 企画展示室
観覧料 無料

第6 奄美パーク応援隊について

(1) 結成目的

奄美パークの活動を支援し、魅力ある施設実現の一助とし、ひいては奄美群島の観光振興に寄与することを目的とする。

(2) 隊員数

40名（平成27年3月31日現在）

(3) 年間活動回数（延数）

107回（平成27年3月31日現在）

(4) 活動内容

奄美パーク応援隊は、施設内のガイドを目的に平成15年度に発足した。

発足後、あまり得意でない展示案内にもすべての隊員が関わるというイメージが強かったためか、隊員が激減してしまった。そのため、平成18年度にそのイメージを払拭することを目的に分科会を設けた。

しかしながら、分科会によっては活動実績がない状況にあり、再度、活動のあり方を見直しすることとした。その結果、それぞれ得意な分野や興味のある分野を中心に参加すればよいことが浸透されていることもあって、平成25年度をもって分科会を廃止した。

平成26年度からは、展示案内、手熟の披露（三味線やしまうた等）、園芸作業、一村館のサポートという4つの活動内容で構成し、隊員はそれぞれ得意な分野で活動している。

隊員には登録証を発行し、原則、年2回以上の活動を義務づけている。登録証は、応援隊の活動時以外であっても提示することで、奄美パークの有料ゾーンに入ることができるフリーパスにもなっている。

なお、応援隊には月に一度、活動の予定や奄美パークの行事予定、活動報告などを掲載した「応援隊通信」を配付している。

(5) 活動実績

展示案内については、隊員が自ら伴ったお客様を中心に案内をするケースが多くみられた。

手熟の披露は、隊員がそれぞれの都合で来園し、あしびの庭の民



家付近でしまったを披露していた。

園芸作業は、月に1回ないし2回の作業日を設けて園内の整備を行った。応援隊の花壇にはニガウリとヘチマ、島キュウリ、赤毛瓜の種を播いた。台風の影響で実が落ちたものの多少の収穫はすることができた。また、小石を取り除いたり、堆肥をいれるなど土壌改良のための作業を行い、平成27年の春から夏にかけての開花を期待してマツバボタンやガザニアなどの挿し芽をした。

そのほか、平成23年3月からの有志による六調三線の練習も続いており、その成果を披露する機会ともなる団体の見送りなどはとても好評である。



鹿児島県奄美パーク事業報告書

リーフ

第 13 号

2015年4月発行

編集・発行 奄美群島広域事務組合

鹿児島県 ■奄美の郷
■田中一村記念美術館
奄美パーク

〒894-0504 鹿児島県奄美市笠利町節田1834

Tel:0997-55-2333 Fax:0997-55-2612

HP <http://www.amamipark.com/>

BLOG <http://ap129.amamin.jp/>

